



講演会場(上)とポスター

日本気象学会で講演

日本気象学会2018年度春季大会が5月16日から19日の4日間、つくば国際会議場で開催され、当社は3件の講演を行いました。

「台風の観測機器」というテーマでは、新たに開発したドロップゾンデ観測システムを紹介しました。現在、台風の中心気圧は気象衛星の雲画像からある計算方法で推定していますが、本システムは航空機から台風ゾンデを投下して直接測定するためのものです。地球温暖化に伴いより強い台風の発生が懸念されるため、より精緻な台風の熱力学的構造の解明や風向風速の計測のニーズが高まっており、そこに貢献すべく開発しました。講演では、開発の苦労話と専門的内容を分かりやすく説明した、と好評でした。

このほか、「明星電気の雲粒子(CPS)ゾンデの紹介」と、POTEKAの観測データによる「地上稠密観測による気温低下型突風予測手法検証」について講演しました。

明星電気は気象学の知識の正しい理解と普及に協力していきます。

(担当: 気象防災事業部)



機関誌「会報宇宙」No.66表紙

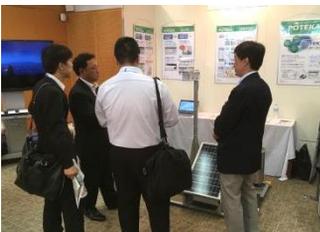
経団連機関誌に宇宙関連記事を寄稿

一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)の機関誌「会報宇宙」に、当社の寄稿記事が掲載されました。「会報宇宙」は、経団連宇宙開発利用推進委員会が毎年発行しており、経済界をはじめ、政界、官界、有識者など幅広い層に向けた機関誌です。

今年度は、「宇宙探査への挑戦」をテーマとして特集が生まれ、当社からは谷本執行役員/宇宙防衛事業部長が、明星電気の立場からみた今後の宇宙探査への展望、課題、技術開発の動向などについて執筆・寄稿しました。今後の動向として、官民双方において、宇宙探査に向けた機運が益々高まっていくことが考えられます。

当社も宇宙探査の分野で更なる飛躍ができるよう事業展開していきます。

(担当: 宇宙防衛事業部)



展示ブース全景

砂防学会定時総会にPOTEKA展示

5月16、17日に鳥取県米子市米子コンベンションセンターにおいて、砂防学会定時総会ならびに研究発表会「鳥取大会」が開催され、全国から約1,000名の砂防関係者と29社の出展企業が集い大盛況でした。

近年多発する集中豪雨などによる甚大な被害の発生を受けて、関係機関の被害軽減に対する取り組み事例の発表や、出展企業ブースでの最新技術を活用した防災・減災関連製品の展示が行われました。

当社は株式会社テクノシステム様、有限会社アガリスシステムサービス様と共同でPOTEKAを出展し、異常気象の察知のための高密度な気象観測の必要性をアピールしました。

(担当: 中四国支店、気象防災事業部)

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。